

#### 4 砂浜にはどんな植物が生えているだろうか

海岸は、植物が生育するには、大変きびしい環境であるといえます。それは、ほかの平地にくらべて紫外線が強いし、それに加えて、たえず塩分にさらされているからです。

このため海岸の植物は、一般に上に述べたような環境に適した形態をもっています。たとえば、地下部は、砂の中や岩のすきまに広く深く根ざしています。また地上部は、コウボウムギ・ケカモノハシなどのようにきわめてかたくなったものがあります。

砂浜に出ると、波うちぎわから内陸にむかって帯状に、立地条件の変化にしたがい規則正しい配列がみられます。図-9はいわき市の新舞子浜を例とした、砂浜の植生の配列を模式化したものです。この図によって、砂浜植物の生えているようすを調べてみよう。

まず、波うちぎわにいちばん近い、ゆるい傾斜に砂だけの場所がみられます。その後方で高くもりあがった小砂丘には、風によってたえず砂が移動するので、他の植物にさきがけて生育するコウボウムギ群落がみられます。ついでハマニガナ・ハマボウフウなどが生育しています。

コウボウムギなどの植物がしげって、砂の移動が少なくなると、ハマエンドウオニシバ・ケカモノハシなどが生育してきます。

砂の移動がなく、立地が安定している後方の砂丘では、ハマゴウ・テリハノイバラのような低木林がしげってきます。

この砂浜の低木林の後方には、クロマツ林が海岸線に平行に帯のように生育しています。

このクロマツ林までが、砂浜の植生域になります。

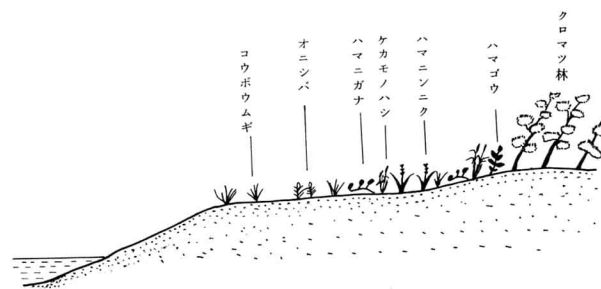


図-9 砂浜植物の植生配列模式図